



Core File Exporter

- [Core File Exporter \(1 ページ\)](#)
- [Core File Exporter の設定 \(1 ページ\)](#)
- [Core File Exporter のディセーブル化 \(2 ページ\)](#)

Core File Exporter

ファブリック インターコネクトまたは I/O モジュールなどの Cisco UCS のコンポーネントでの重大なエラーによって、システムにコアダンプ ファイルが作成される場合があります。Cisco UCS Manager は、Core File Exporter を使用して、コアダンプ ファイルを TFTP 経由でネットワーク上の指定された場所にエクスポートします。この機能を使用することにより、tar ファイルをコア ダンプ ファイルのコンテンツと一緒にエクスポートできます。Core File Exporter は、システムをモニタリングし、TAC Case に含める必要のあるコア ダンプ ファイルを自動的にエクスポートします。

Core File Exporter の設定

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope monitoring	モニタリング モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /monitoring # scope sysdebug	モニタリングシステムデバッグモードを開始します。
ステップ 3	UCS-A /monitoring/sysdebug # enable core-export-target	Core File Exporter のイネーブル化 Core File Exporter がイネーブルな状態でエラーによりサーバがコア ダンプを実行する場合、システムはコア ファイルを TFTP 経由で指定されたリモートサーバへエクスポートします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 4	UCS-A /monitoring/sysdebug # set core-export-target path path	コア ファイルをリモート サーバにエクスポートするときに使用するパスを指定します。
ステップ 5	UCS-A /monitoring/sysdebug # set core-export-target port port-num	TFTP を介してコア ダンプ ファイルをエクスポートするときに使用するポート番号を指定します。有効な値の範囲は1～65,535 です。
ステップ 6	UCS A/モニタリング/sysdebug # set core-export-target server-description 説明	コア ファイルを保存するために使用するリモート サーバの説明を加えます。
ステップ 7	UCS A/モニタリング/sysdebug # set core-export-target server-name hostname	TFTPを介して接続するリモートサーバのホスト名を指定します。
ステップ 8	UCS-A /monitoring/sysdebug # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次の例では、Core File Exporter をイネーブルにし、コア ファイル送信に使用するパスとポートを指定し、リモートサーバのホスト名を指定し、リモートサーバの説明を加え、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope sysdebug
UCS-A /monitoring/sysdebug # enable core-export-target
UCS-A /monitoring/sysdebug* # set core-export-target path /root/CoreFiles/core
UCS-A /monitoring/sysdebug* # set core-export-target port 45000
UCS-A /monitoring/sysdebug* # set core-export-target server-description
CoreFile192.168.10.10
UCS-A /monitoring/sysdebug* # set core-export-target server-name 192.168.10.10
UCS-A /monitoring/sysdebug* # commit-buffer
UCS-A /monitoring/sysdebug #
```

Core File Exporter のディセーブル化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope monitoring	モニターリング モードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /monitoring # scope sysdebug	モニターリング システム デバッグ モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	UCS-A /monitoring/sysdebug # disable core-export-target	Core File Exporter をディセーブルにします。Core File Exporter がディセーブルの場合、コア ファイルは自動的にエクスポートされません。
ステップ 4	UCS-A /monitoring/sysdebug # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

次に、Core File Exporter をディセーブルにし、トランザクションをコミットする例を示します。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # scope sysdebug
UCS-A /monitoring/sysdebug # disable core-export-target
UCS-A /monitoring/sysdebug* # commit-buffer
UCS-A /monitoring/sysdebug #
```


翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。